

はじめに

今の自分から始めよう

こんにちは、いそべ晶子です。

この本を手にとってくださって、ありがとうございます。

わたしは、これまで、さまざまな仕事に就いてきました。秘書、半導体製造開発、アパレル会社勤務（企画、営業）、販売員（雑貨、靴、子ども服）、写真館勤務（カメラマン、ヘアメイク、着付け、販売）など。そして現在は、教育に関わる出版の仕事をする傍ら、セラピストとしても活動しています。

多くの経験をしてきましたが、何かを成し遂げた、という実感はありませんでした。むしろ、一つの仕事を長続きできないということに引け目を感じていました。

悩みも多く、自信を持ってずにいたあるとき、TEDというスピーチの動画で、こんなタイトルのものに出会いました。

『天職が見つからない人がいるのはどうしてでしょう？』

スピーカーのエミリー・ワブニックさんは、わたしのようなタイプの人を「マルチ・ポテンシャル」と名付けて、その特徴を語りました。飽きっぽい。長続きしない。その代わり、物事を習得するのが早い。さまざまな経験を結び付けて新しい試みができる。相手に合わせた提案ができる。など。

さらに、彼女の話は続きました。

「そもそも天職という概念は幻想ではないか、一つの仕事に就くことが素晴らしいという考えは単に思い込みなのではないか」と言うのです。

わたしは目を見張りました。

この考え方が一般的ではないとしても、こんなふうに考えてくれる人がいることが、わたしを勇気づけました。今までのわたしの経験は、失敗を繰り返してきたものではなく、役に立つ経験を積み重ねてきたものかもしれないと思えるようになりました。

そうだとしたら、わたしの中に生きている数々の経験を、自分のためだけでなく、誰か他の人、それがたった一人のためでも、役に立てる方法は何かないだろうか。そう考えるようになりました。

そんなあるとき、今働いている会社で、出版物に使う挿絵を頼まれました。

わたしは、仕事で問題を解いている間に、計算用紙の片隅に、すぐ、小さな絵の落書きをしてしまいました。それが、担当者の方の目に留まったのだそうです。受験生を励ます、前向きなものを描いてほし

いと言われました。新しいキャラクターを考え、懸命に描いた挿絵は、まず、担当者の方にとっても喜んでいただけました。出版物が出来上がり、あちこちにそのキャラクターが配置してあるのを見て、わたしもうれしくなりました。この挿絵が受験生を和ませ、少しでも力になりますように。

わたしの経験が思わぬかたちで生かされ、人の役に立ったり、喜ばれたりすることは、今のわたしの大きな力になっています。ふと気づくと、この会社での仕事を、もう十年以上続けていました。

この本を執筆することは、わたしにとっては大きな選択でした。できるだろうか、と不安でした。でも、新しい可能性は、いつでも身近な日常の中にあると気づいたのです。

何かに出会って、そこから、どんなことをヒントに人生の変化を選んでいくか、はその人次第です。もし、わたしの小さな体験を読んでくださったあなたが、こんな人間もいるのだと知ること、ご自分身の何かを生かす新しいヒントになったらどうだろうか。それを想像してみたときのすぐうれしい気持ち、わたしの背中をぐっと押ししました。

そして、もう一つ、わたしを動かした大きな力は、家族です。

子どもから大人になる中で、けんかをしたり、反発したりした家族のことを、わたしは、ずっと大好きだったと、今、気づいています。ともにいてくれることに感謝が湧くようになり、ようやく、素直に家族のサポートを受け取れるようになりました。そんなわたしと家族との小さな日常が、あなたをくすつと笑わせることができたら、と考えると、心底わくわくします。

今いるところから、あなたを生かす何かを始めてみませんか？

あなたの経験の中に、誰かを、そして、あなたを喜ばせるネタが、きっと、まだまだ潜んでいると信じています。

前書きにかえて

